

平成 30 年 1 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 30 年度 第 1 回

新聞の見方 ― 違和感を感じる記事

平成 30 年度第 1 回目の北関東フォーラムです。今年から少し講話の仕方を変えようと思っています。東京フォーラムで要望がありましたので、時事評論から始めたいと存じます。

新聞やテレビ、ネットといったメディアで私が氣にするのは、違和感を感じる記事です。例えば、昨日（1/19）の読売新聞「米の二極化に拍車」という記事、トランプさんが就任して一年、共和党支持層はより保守化し、民主党支持層はよりリベラル化しているとあります。今日（1/20）の読売新聞にも「2 年目も型破り」の見出し、社説には「トランプ流に世界が揺れた」・・・これらを見て違和感を感じました。なぜなら、アメリカの現状説明しかしていません。

同じく 19 日の読売新聞のパウエル新議長就任について書かれた記事には、「アメリカ経済で不可解な事は、雇用が増えても物価上昇率が政策目標の 2%に届かない」・・・と、これまた現状の説明のみで、新聞社としてどう考えているか、自分の主義主張がない。これからどうなると思うか、ではどうしたらいいか、という視点があるかどうかを私は見ています。

横の知識で新聞を見直しして違和感の原因を追究すると、今、世界中に軋みが起きています。イギリスが覇権国家から転落し、アメリカが出てきた。そのアメリカももう駄目になっています。木内信胤先生が 20 年前に喝破しておられた通りです。時代の流れをみると、一つの国が誕生したり消滅するのはごく当たり前のことであるし、世界全体の覇権が変わっていくのも時代の流れであると考えます。

時代は今、西洋文明から東洋文明に移行しようとしています。覇権国家は明らかに中国へ向かってシフトしています。グローバリズムはもともとアメリカが覇権を進めるために打ち出した考え方なので、アメリカが落ちるのに合わせてグローバリズムも終わりになるわけですが、中国はそのグローバリズムを踏襲しようと思えるから、これも早晚駄目になっていくだろうと思っています。

そうなる世界史的にみて、日本という国はとても独特な国です。皇室の歴史をみても、他の国家とは比較になりません。色々な国家が集まって文明圏を構成するわけですが、日

本の場合は、たった一か国で日本文化圏を作っています。ですから中国へ覇権が移行していく流れに対抗するのではなく、それとは違った形でそびえ立つ一つの文化国家・一つの文明圏として日本が存在するわけです。そして中国の覇権にNOと言う人達が日本の文化圏に憧れを抱いて、その真似をするような時代に入ってくるであろうと考えます。これは100年、200年という単位の話です。

最近の新聞で私が違和感を感じるのは、こういうものの見方・考えなしに記者が記事を書いているからです。目先だけの現状説明で終わりにしている。哲学なしにメディアが情報を垂れ流しにしています。哲学がないメディアは滅びる。そのように私は新聞を見ています。

では、気になった記事を幾つかご紹介します。

○世論誘導をはかっていると感じる記事

・**フリー働き方多様に** (1/19 読売新聞)

見出しだけ見ると、一見良さそうに思えます。しかし中身を読むと、「公取委が昨年夏以降ネットなどを通じて実施した調査では、フリーランスで働く人から多くの不満の声が寄せられた・・・」とあります。

新聞を見るのに、見出しだけを見て中身を読まない人が多いようです。中身をしっかりと読んで自分で良いか悪いかを判断しなければいけないのに、見出しだけ見る。そういう人達がこれを見て、フリーの働き方の選択肢が広がって良いことだと思ってしまうと、世論誘導が進んでいることになります。これは、政府のものの考え方にメディアが迎合し忖度をして文章を書くからで、書いている記者は無意識の内に世論誘導をしています。明らかに世論誘導をするのであれば、こんなネタバレみたいな文章は書きません。ですからこの記事は、浅薄な知識を持った浅い人間が書いています。昔でいう本物の新聞記者が書いていたわけではありません。浅い人間を記者として活用している新聞社も、同じく墮落をしています。

・**ウソの検索結果削除命令 名誉棄損ヤフーに** (1/19 読売新聞)

ヤフーに対してウソの検索結果を削除するよう高裁が判断を下した・・・と、裁判所も良いことをするなと何となく良く見える見出しです。中身を読むと、「検索結果が真実でないことが明らかな場合には、事業者が名誉棄損を理由に検索結果を削除すべきだとする判断を示した」と裁判所の立場を書いています。関連記事が後ろの社会面にあって、それを読むと、「ウソ立証は困難」という見出しになっています。

つまり、<ヤフーがウソの検索結果を載せたのはけしからんから罰金を払いなさい>という見出しになっていますが、裏面の解説記事を見ると、<ヤフーが真実であるかどうか一つ一つチェックすることは出来るわけがない>と、後ろで骨抜きにしています。裏面まで読んだなら色々な見方があるということになりますが、1面の記事だけを見ると、<ヤフーは嘘を載せる所だ！良くない>という世論誘導をしている。こういう書き方をした場合、ヤフーと対抗する会社がヤフーの評判を貶めようと裏で書かせているのではないか・・・、そう私は見ます。

ですから新聞に書いてあるものをそのまま信用してはいけません。世論誘導で一見良い事を言っているように見えるものは怖いと思っています。

・「65歳高齢者」見直し 就労促進、社会担い手に (1/18 上毛新聞)

見出しをパッと見ると、元気で頑張って働きましょう！と良さそうな文言ですが、何のことはない、政府に金がないからどんどん働かせて、働いた人は年金をカットされるという具合です。確か、今は年金も含めて収入が48万円を超すと、年金がカットされます。どんどん働かせて年金はカットすればよい、という政府の思惑が透けて見えます。

こういう新聞記事を見て、とんでもないと思ったり、何か対策を考えなければいけないなど感じる。それは全部、読んでいて違和感を感じるかどうかポイントです。

○ヒントとして見て、自分で考える記事

・死別後、配偶者に居住権 (1/17 日経新聞)

相続を巡るトラブルを減らす目的で、残された配偶者が亡くなるまで今の住居に住める居住権を認めるということです。法制審議会がそういう要綱案を出したということですから、まだ正式に決まったわけではありませんが、この流れは当たり前で、良い方向だと思います。

肝心なのは見出しを見て、中身を読み、自分で考えることです。自分が死んだらどうか、奥さんは住むところに困らないだろうか・・・と、我が身に置き換えて考えることです。

ヒントとして新聞を活用する例をお話します。

私は会社で各営業所や部ごとに社員と懇談会をしていますが、先日の懇談会でビル管理業務の人事担当の社員から、「募集をしても人が集まらない。何か良いヒントを下さい」という質問がありました。どうやって募集を出しているかと聞くと、決まりきった募集広告しか出していないというのです。そこで、女性のパートさんの募集であれば、配偶者控

除の改正によって103万の壁が150万になった、という新聞記事が役に立ちます。今年から配偶者控除が変わるということで、主婦は目の色を変えるわけです。そういう人に向けて、「答えを教えて差し上げます」という募集広告を出してごらんとアドバイスしました。

新聞記事を見て、氣になったら自分で考える事です。自分の仕事に直結して考えれば、良い答えが出て来ます。新聞はヒントだと申しあげているのは、そういうことです。悩んだり苦しんだりしている人に、良い解決策がヒントとして出ている可能性がまだまだあります。「腐っても鯛」ならぬ、「腐っても新聞」です。

○予測を促す記事

・新型インフル備え訓練 — 駒込病院 患者対応を確認 (1/19 読売新聞)

中身を見ると、「新型インフルエンザが発生した場合、国は、国民の25%が罹患すると想定している」とあります。これも、記者は非常に浅い知識で書いています。かつて厚労省は、鳥の新型インフルエンザ強毒性が発生した場合、2200万人が罹患し、200万人以上が死亡すると発表しています。その時流行したインフルエンザは弱毒性だったので、人間は死ななかったのです。強毒性が流行ったなら、オーストラリアの或る研究所の数字では、日本人は2000万人が死ぬと出ています。

そういう横の知識を持っていれば、この記事を見て、何か始まったかなと思えるわけです。他にも、都内の野鳥から鳥インフルエンザウィルスが発見されたという記事が最近ありましたし、香川県では9万羽の鶏が焼却されたとありました。日本国内でそういうことが起きているということです。

新型インフルエンザに備えて訓練をしたという記事は、何かあるぞ！という予測を促す記事ですから、それによって自分の動きを決めていく必要があります。

・前橋で大地震想定訓練 1万7000人安全行動 (1/18 上毛新聞)

大地震を想定した防災訓練「シェイクアウト」が前橋市で一斉に行われ、自宅や職場、買い物先などで安全を確保する行動訓練をしたという記事です。これによって皆さんが何を想定するかというと、3.11です。

3.11の時、自分が放射能に汚染されてもおかしくないと思った方はおられますか？ 手を挙げた方は、その時、情報をお持ちでしたか？・・・皆さん漠然と感じたという状況ですね。3.11の時、日本のテレビが映していたのは、津波で家が流されたり車が流される映像だけでした。しかし外国のテレビでは、福島原発の爆発が起きて日本列島に放射能が拡散するシミュレーション映像が報道されたといえます。それによって本国から情報を得

た外国人は、一斉に逃げ出したという話を聞きました。日本でも東海村の原子力関連の技術者たちは、福島で観測された放射線の数値から爆発が起きていると察知して、出て行ったという事実があります。幸い東海原発は大事故には至りませんでした。というのは、地震の1週間前に防護壁を高くする工事が終わり、電線を通す穴を塞いだばかりでした。しかしまだ小さな穴が開いていたので、そこから海水が入り込んで、もう少しで全電源が喪失し福島と同じ状況になるところでした。もし爆発をしていたら、関東は全滅、放射能は神戸まで流れたらというデータが出ています。

ちなみにシムックスでは鳥獣対策課で、県の委託を受けて猪や鹿の捕獲をしています。群馬県の猪・鹿は汚染されているから食べてはいけないと規制されていますが、秩父の鹿の肉は食べられるのです。ですから風向きによって、どの地域が汚染されるか、誰が汚染されるか、神様のきまぐれとしか言いようがありません。

大地震を想定して訓練をしたという記事ですが、どこまでそういう情報を承知で訓練をするかということです。横の知識をどれだけ持っているかによって、自分の動きが変わります。ということで、一つの新聞記事を見たら、色々なことを想定するとよろしいでしょう。

今日の時事評論、新聞の見方についてポイントを纏めますと、

- 1、世界の流れ、時代の潮流を読み取る
- 2、世論誘導をしている記事は違和感を感じるので、その狙いを考える
- 3、現状説明だけの記事は、その中からヒントを得ればよい
- 4、予測を促す記事は気にする
- 5、国の三権の長の情報を発信している記事は注意して見る

これは、皆一緒になって忖度し合っているから、よく見た方がよろしいでしょう。

- 6、純粋なニュースはどれか

こういう視点で私は新聞を見ていますし、こういうものが背景にあって時事評論をしています。

恒例の質問

では、恒例の質問に参ります。今年に入って半月ちょっと経ちました。

○ 今年に入って、良い日が続いたと思う方

くれぐれも天秤にかけないこと。良い事があつたら、それを都合よく拡大解釈をして、良い日が多かったと思うことです。良いか悪いかではなく、自分自身の心を誘導するので

す。

○ 今年に入って、嘘をつかなかった方

○ 今年に入って、有難うと言ひ有難うと言われることが多かった方

これも誘導で、無理やり「有難う」と言われるようにすればよいのです。ただ、そういう状況にない時もありますから、時々なくても良いだろうという氣は致します。

○ 今年に入って、健康法をよく実践している方

今朝は 7 時半から道場で皆さんと朝稽古で真向法を致しました。非常に身体が柔らかい人がおられました。身体が柔らかい人は、頭も柔らかいと思っています。健康法のポイントは毎日やる事です。私の実感で、毎日続けると必ず身体に効果が出ます。

○ 今年に入って、自分磨きをよくやっている方

○ 昨晚寝る時に、満足して眠れた方

結構、手が挙がりました。ではもう一つ、明日も満足したなと思って眠れた方

明日も良い日でありますようにと思って寝るのはダメです。大概そうはなりません。思ふのは勝手ですから、明日も良かったなと思って寝ればよいのです。言い聞かせていると、そういう頭になります。

足るを知る心=積極心

基本哲学「知足」を、本日のテーマ「積極心」と併せて説明します。足るを知るということは、日々の行動がぶれない、安心感のある過ごし方になります。川村代表幹事の挨拶で、安倍首相の続行は決定しているのでしょうかと言われましたが、決定はしておりません。ですからハラハラ、ドキドキの繰り返しではないでしょうか。そういう時に「足るを知る心」を持っていれば、それほど不安感はないと思います。

中村天風先生が講演会でよくお話された、「晴れてよし曇りてもよし富士の山 もとの姿は変わらざりけり」の如く、足るを知る心を我がものとしている人は、富士山みたいなものだと思います。晴れてよいと思うか曇ってよくないと思うかは見る人によって変わるものであって、富士山は変わっていない。自分の心が落ち着いて安定していれば、どんな状況でも大丈夫です。それは「足るを知る心」を我がものとしているからです。根っこの部分でドシッと落ち着いたものを持っていれば、悩んだり苦しんだりすることはほんの一部分ですから、それを取り去ればよいのです。そうすると心の中は変わらない。何があっても動かされない心を持っている状態、心の落ち着きが常にあることを「知足」と言います。

足るを知る心は、そのまま今日のテーマ「積極心」と直結をします。積極的な心を持っている人は、結果として「足るを知る心」を持てるとお考え下さい。

積極心とは、第一に、比較しない心です。会社員の方にお聞きしますが、同僚と比較して自分は給料が安いのではないかと思うことはありませんか？ 比較する心があると争いが生じます。足るを知る心からは離れてしまいます。他人を見て羨ましいと思ったり、比較する心を持たない。積極心はそこから生まれて来ます。

よく、あの人は積極的だと言いますね。それは片方に消極的な人がいるから、その人に比べて積極的だとなるわけです。私は私、彼は彼であって、比較をしない心が第一です。積極的、消極的という言葉を出すから、積極心が見えなくなって来るのです。

次に、勝ち負けを気にしない心です。人に負けてなるものか！ あいつには勝たなきゃならん！ と思っていませんか。勝とうと思わないし、負けようとも思わない。これも富士山です。富士山は「赤城山に勝った」とか「エベレストに負けた」とは言いませんね。

最後に、見返りを求めない心です。以前お話しましたが、或る女性ジャーナリストの講演会を聞く機会がありました。終わった後の懇親会で、その方は渡される名刺をサッと見て、相手によって態度を変えていました。こういう人には、又会いたいとは思いません。名刺交換をする時は素直に有難く戴けばよいのです。下心はいけません。

天風先生の言われる「気に入らぬ風もあろうに柳かな」の如く、どんな風が吹こうと気にしない。風にあわせて吹かれればよいのです。見返りを求めないで何かをして差し上げる心が積極心であり、「知足」であるとお考え下さい。

論語の学び方 — 現代に置き換えて考える

では、論語の解説を致します。本日は、衛霊公篇 34～36 です。

【三四】 し いわ たみ じん お すいか はなは すいか われ ふ し もの 子曰く、民の仁に於けるや、水火よりも甚だし。水火は吾 み いま じん ふ し もの み 踏みて死する者を見る。未だ仁を踏みて死する者を見ざるなり。

孔子が言うには、仁（思いやりの心）は水や火よりも必要なものだ。水に溺れたり、火に焼かれて死んでしまった者を私は見るけれども、仁を追及して死んでしまった者を見たことがない。

本当に国民は思いやりというものを理解しているのかねえ…と、孔子の嘆きが入っているように感じます。

仁を追及することによって死ぬ者はいないと孔子は言っていますが、仁を疎かにすることによって死ぬ人は沢山いますね。今の時代、親が子供を殺したり、子供が親を殺したり、

ちょっとしたことで人を傷つけてしまう事件がとても多い。ですから「未だ仁を踏みて死する者を見ざるなり」は、「仁を踏まざるをもって死する者甚だ多し」と読めばよいでしょう。そういう解釈をしている学者はいませんが、今風に解釈するとそのようになると思いました。

【三五】 し いわ 子曰く、じん あた 仁に当りては、し ゆず 師に譲らず。

孔子が言うには、仁を追及実行するにあたっては、師匠であっても自分の主義主張を譲ることはない。

自分がこれだと思ったなら、師匠が何を言っても真正面からぶつかっていくべきだと言っています。「私の言うことだからといって丸呑みするでない。自分の主義主張があればどんどん言いなさい」と、孔子がお弟子さんを煽っていると感じます。

中斎塾フォーラムでも質疑応答の時間を設けていますが、辞書をひけば書いてあるようなことを質問されると、「調べて下さい」とお答えしています。自分が分からないと思ったことをそのままぶつけるのは良いことではありません。自分で調べて、周りの人にも意見を聞いて、何人かの知恵を集めても分からなければ、聞けばよいのです。

国会の質問時間をみても酷いですね。聞くに堪えない答弁をしています。こういう論語をもっと勉強して欲しいと思います。

【三六】 し いわ 子曰く、くんし てい 君子は貞にして、りょう 諒ならず。

孔子が言うには、君子は大きな約束事を守ろうと思えば、目の前の小さい約束はあまり気にしない。

貞とは大きな信義、約束事です。諒は小さな信義、約束事です。山田方谷が借金を返済する時に使った手法で考えます。山田方谷は備中松山藩の藩主に懇願され、今で言えば大蔵大臣になりました。方谷が調べてみると10万両もの借金があり財政破綻寸前、利息の支払いのために又借金するという状態でした。毎月の金利を払っていたのではとても藩の再興は出来ませんから、方谷が行った再建策は、情報公開と借金の棚上げでした。財政再建という大きな約束事のために、目先の小さな借金は塩漬けにしてもらったのです。但し、大きな借金の中に組み入れる形をとりましたから、踏み倒しではありません。

ここらへんは異論が出ると思いますが、大きな約束と小さな約束両方とも守るのは無理だから小さな約束はチャラにしてしまう、或いは大きな約束の中に取り込んでしまうのは如何ですか・・・私はそうしています、と孔子が説明しているとお考え下さい。

もともと論語は、孔子先生の周りに良い職を得たいというお弟子さん達が集まって、そこで学ぶことによって師匠の評価を得て、色々な国々の重要なポストに推薦して貰い、実際に重職に就くことが出来ました。その評判が広まって、またお弟子さんが集まる。その結果、孔子のお弟子さんは3000人と言われるまでになったのです。ですから孔子の説く言葉は、弟子の立場でみると就職活動のための話であると捉えればよいわけです。

それが日本に入って、日本の中でどんどん解釈が変わり昇華して、人間の道を磨く素晴らしい教典であるという位置づけになりました。特に、明治以降の人たちは、<論語をすらすら読めないようでは文化人ではない>と言われるくらい浸透していました。

論語の勉強の仕方は、朱子学が一つです。朱子学は机に向かって一生懸命調べて、調べて、考えるという座学です。しかしそうやって学んでもよく分からないという人達が増えてきて、王陽明が陽明学を打ち出しました。すなわち「百聞は一見に如かず」で、考えるだけでは駄目、自分の眼で見て体験して考える、行動を重んじる陽明学が発達しました。

日本では朱子学が先に入り、江戸時代は官学として武士階級に重用されました。それに対抗して一般民衆側から陽明学で勉強する動きが進み、最終的には陽明学が盛んになりました。明治維新は陽明学を信奉する人たちによって達成されたと言えます。

では、今の我々は論語をどのように学べばよいか。私は論語を現代に置き換えて、今の時代に通用するような解釈をしましょうと申し上げています。それが今の時代に役に立つ、且つ自分自身を磨くことになると思っています。

晴れてよし曇りてもよし富士の山

今日ご紹介する本は、中村天風先生の『叡智のひびき』（講談社）です。積極心について、天風先生の考え方が詳しく書かれています。

先程、積極心の説明で、富士の山の如く不動の心を持てばよいと申しました。それは積極的に相手の心を思いやる心が根っこになればいけません。例えば、川で子供が溺れてバタバタしている時に、不動の心とはいきません。自分の気持ちで良いと思うことだけ、自分の気分合うことだけをやるのはいけません。

本の中で天風先生は、積極心について間違った解釈をする者があると戒めています。すなわち、何か問題があっても一切関わらない、自分の気分適合するものだけを相手にす

る結果、ご都合本位の享楽主義に陥るとあります。溺れている人間がいたら、助けなさい。苦しんでいる人がいたら、苦しみを除いてあげるように努力しなさい。そして見返りを求めない。それが積極心という言葉に入っていると天風先生は言っておられます。

他にも、松下幸之助さんに関する本を持って来ました。（『拝啓松下幸之助殿』 齋藤周行著 一光社、『血族の王—松下幸之助とナショナルの世紀』 岩瀬達哉著 新潮社）小此木会員が松下幸之助さんの本を読みたいと言っておられたので、松下幸之助さんについて真正面から書かれているものだけではなくて、松下幸之助さんに対する批判やタブーについて書いている本もあるというご紹介です。

物事は一面から見るのではなくて、色々な面から見る癖をつけて下さい。そのためには横の知識を増やして行って、それを我がものとするためには縦の学問を持たない限り、横の学問は生きてきません。

縦の学問と横の学問が人間には絶対に必要です。それをずっと突き詰めていくところに、天風先生の言われる積極心、いわゆる悟りに直結をしてくるのです。

お時間が参りました。本日の講話はこれで終了致します。